

裁判官人事(四号)

内閣人 第一二号

起案

令和五年一月二十六日

決定	令和五年一月二十七日
上奏	令和五年一月二十七日
裁可	令和五年一月二十七日

施行

令和五年一月二十七日	令和五年一月二十七日
令和五年一月二十七日	令和五年一月二十七日
令和五年一月二十七日	令和五年一月二十七日

内閣総理大臣



内閣官房長官



内閣官房副長官





内閣総務官



裁判官人事

裁判官の人事について、別紙のとおり決定することといたしたい。

なお、本件に係る署名については、「閣議運営の効率化について（平成十一年

十月五日閣議決定）」により、内閣総理大臣限りとされている。

内

閣

判事補に任命する

村上 亜 優

(二月一日)

(さいたま家庭裁判所判事兼
さいたま地方裁判所判事)

判 事

井 上 有 紀

簡易裁判所判事に兼ねて任命する

(二月十七日)

(東京地方裁判所判事・
東京簡易裁判所判事)

判 事 兼
簡易裁判所判事

本 條 裕

(福岡高等裁判所判事・
宮崎簡易裁判所判事)

同

高 橋 亮 介

願に依り本官並びに兼官を免ずる(各通)

(以上二月六日)

最高裁人任第154号

令和5年1月25日

内閣総理大臣 岸 田 文 雄 殿

最高裁判所長官 戸 倉 三 郎

(公印省略)

判事補に任命されるべき者を次のとおり指名する。

なお、本件は裁判官会議の議を経たものである。

むら かみ あ ゆ
村 上 皿 優

(発令希望日 令和5年2月1日)

判 事 補 任 命 資 格 調

(令和5年2月1日)

補職さるべき庁	現 職	氏 名	生 年 月 日	根 拠 法 規
東京地判事補		村 上 亜 優	平8.2.6	裁判所法第43条

1 丁		裁 判 所			
		五		年 号	出生地
		一	九	月	
		一	七	日	
		司法修習生の修習終了	司法試験合格	事	
				項	旧氏名
					出生年月日の
					氏名
				庁	平成八年二月六日
				名	むらかみあゆむ

最高裁人任第37号

令和5年1月25日

内閣総理大臣 岸 田 文 雄 殿

最高裁判所長官 戸 倉 三 郎

(公印省略)

簡易裁判所判事に兼ねて任命されるべき者を次のとおり指名する。

なお、本件は裁判官会議の議を経たものである。

おつて、同人は、兼官たる簡易裁判所判事としての任期が令和5年2月16日限り終了するものである。

(さいたま家庭裁判所判事兼)

(さいたま地方裁判所判事) 判 事 井 上 有 紀

(発令希望日 令和5年2月17日)

簡易裁判所判事任命資格調

(令和5年2月17日)

補職さるべき庁	現職及び前職	氏 名	生 年 月 日	根 拠 法 規
さいたま家地判 事兼さいたま簡 裁判事	さいたま家地判 事兼さいたま簡 裁判事 し	井 上 有 紀	昭55.5.31	略

(再任)

兼 官 理 由

簡易裁判所の令状事件等の処理を機動的に行うために、簡易裁判所判事を兼官させて裁判事務を適正に処理させたい。

最高裁人任第28号

令和5年1月25日

内閣総理大臣 岸 田 文 雄 殿

最高裁判所長官 戸 倉 三 郎

(公印省略)

(東京地方裁判所判事)
(東京簡易裁判所判事)

判 事 兼
簡易裁判所判事

ほん じょう ゆたか
本 條 裕

願に依り本官並びに兼官を免ずる

上記のとおり発令されたい。

なお、本件は裁判官会議の議を経たものである。

(発令希望日 令和5年2月6日)

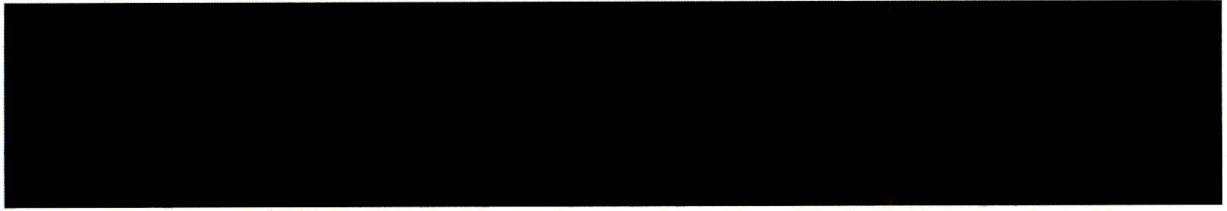
退 官 願

令和 年 月 日

内 閣 総 理 大 臣 殿

東京地方裁判所判事
東京簡易裁判所判事

判 事 兼
簡易裁判所判事



最高裁人任第1910号

令和5年1月25日

内閣総理大臣 岸 田 文 雄 殿

最高裁判所長官 戸 倉 三 郎

(公印省略)

(福岡高等裁判所判事)
(宮崎簡易裁判所判事)

判 事 兼
簡易裁判所判事

たか はし りょう すけ
高 橋 亮 介

願に依り本官並びに兼官を免ずる

上記のとおり発令されたい。

なお、本件は裁判官会議の議を経たものである。

(発令希望日 令和5年2月6日)

退 官 願

令和 年 月 日

内 閣 総 理 大 臣 殿

福岡高等裁判所判事（宮崎支部勤務）
宮崎簡易裁判所判事

判 事 兼
簡易裁判所判事

